

いしや先生

町おこし映画顛末記

▶¹⁰

あべ 美佳

早いもので年の瀬、3月から始まったこのエッセーも今回で10回目だ。「志田周子の生涯を銀幕に蘇らせる会」の歩みも着実に進み、映画を作るための募金も710万円を超えた。皆さま、ありがとうさまです!

この数字を見て「なんだて少ないなあ」と思う方もいれ
ば、「たいしたもんだぞれ」と感じる方もいるだろう。私はたった7カ月でよくぞここまで賛同者を集められたと感動している。そりゃあ目標の1億円から見たらまだまだだ

けど、我々にはちゃんと、映画作りのビジョンが見えてきていることを、ここにお伝えしよう。来年から歩みは確実に早まりますよー。楽しい仕掛けもめじる押しの予定、ご期待あれ。

2011年2月20日、私は初めて西川町役場の方とお会いした。「へき地医療に貢献した志田周子という女性を、町おこしを頑張るためのシンボルとしたい。おらだの村にも世界に誇れるような女性がいたんだよ、と後世に残していきたいんだよ」役場の方は熱く語ってくれた。あの日から、もうすぐ3年になるのか。いろいろあつたよにやあ。

このエッセーでは、良いことだけでなく、決して順風満帆ではないところもあえてそのまますべて晒してきた。そのことで我々自身の緊張も高まるし、皆さんにも我がことのように気にしてもらえたら

“お神輿”結の力で



“お神輿”なのだ。そんな方々の力にもなだと思は思う。れたらいいなあ。

時を超え、世代を超え、代々担ぎ続けられる無形の文化財であり、とても高価な宝物。そんな大事なお神輿の、図面引きの役割を任せていただいたこと

を、今さらだがとても光栄に思う。皆で作りに上げた“お神輿”は、折に触れお披露目され、その間の新たな交流が生まれ、皆が一つになることで、ますます地域が活気づき、町の歴史の継承にも繋がることを期待する。そして、東北の小さな町、その町民の熱い思いから発信するこの映画で「日本を元気に」することができたら

嬉しいと思う。映画には、その力があると私は信じている。(脚本家・作家、尾花沢市出身)

「町おこし映画」は、故郷を愛する皆さんにとってのいしや先生」もたくさんいる

「町おこし映画」は、故郷を愛する皆さんにとってのいしや先生」もたくさんいる

11月1回掲載します